

# ノンコンタクトタイム 調査報告書

公益社団法人全国私立保育園連盟 調査部

## はじめに—調査の出発点

公益社団法人全国私立保育園連盟 調査部（以下、調査部）では、よりよい保育環境、労働環境の創造に役立てたいと考え、今回の調査を企画・実施しました。

以前より、各種学会においてノンコンタクトタイム<sup>\*1</sup>（以下、NCT）が議論されてきました。また、経済産業省のホームページ上で公開されている議事録によると、2017年11月に同省で開催された「保育現場のICT化・自治体手続等標準化検討会」において、保育士のNCTについて議論されているのが確認されます。そこには「子どもに関わる以外の時間を意味するノーコンタクトタイムについて、日本でも整理していくべき。そのためには、保育の業務全体を整理する必要がある。」と記載されています<sup>\*2</sup>。

職員の勤務時間よりも、子どもたちの保育時間が短い幼稚園教諭では、NCTを確保することが可能となっています。このことにより、幼稚園では保育計画の策定や教材準備、計画的な研修の実施等の業務を効率的に行うことができます。その一方で、保育園・認定こども園では、職員の勤務時間よりも子どもの保育時間のほうが長いことが多く、必要最低限の事務作業等を行うことさえ困難な状況があります。

保育園・認定こども園においてもNCTを確保し、そこで生活する子どもたちには、より豊かな保育環境を、そして働く職員には、より良好な労働環境の確保を実現できるように、予算対策活動等で活用したいと考え、今回の調査を企画しました。

## 調査の概要

調査内容：本調査報告書に添付した「調査票」に基づく調査（23頁参照）

調査対象：認可保育所・認定こども園の保育士および保育教諭

調査方法：スマートフォン等を利用したインターネット調査

調査期間：2018年9月11日～11月10日

回答者数：3,508名

過去に各施設向けにインターネットを利用した調査を実施したことがありました。その際には思うような回答数を得ることができず、それ以来ネットを利用した調査は行っていませんでした。

しかし、その後のネット環境の変化もあり、スマートフォンを利用した調査ならば、各個人の時間的制約を最小限に抑えることができ、より多くの回答を得られることが可能ではないかと考え、紙ベースの調査を止めて、PC・スマートフォンのみから回答していただくこととしました。また、質問項目も10項目に抑え(選択項目のみ)、調査票への誘導はQRコードを作成し、QRコードと親和性が高いFacebook等の各種SNSを使用して調査の告知に努めたのも新しい試みでした。

## 単純集計とクロス集計

アンケート調査によって収集した回答データを、設問ごとに集計することを「単純集計 (Grand Total)」といいます。また、単純集計の結果による集計表を「単純集計表」といい、「Grand Total」の頭文字をとって「GT表」ともいわれます。

一方で、アンケート調査によって収集した複数の設問における回答データを掛け合わせて集計することを「クロス集計」といいます。クロス集計を行うことで、ある設問の回答傾向を、別の設問の回答別に細分して考察することができるため、「あるサービスに対して、全体では8割の人が満足していたが、満足度に男女差があり、女性では満足している人の割合が2割と低かった」といったように、単純集計ではわからなかった、異なるグループ間での回答傾向の比較が可能になります。なお、細分に使用する設問は「分析軸」や「ブレイクダウン」などと呼ばれます。また、クロス集計の結果による集計表を「クロス集計表」といいます。

今回の調査考察では、積極的にクロス集計を行い、表れたデータをより深く読み解く試みを行いました。

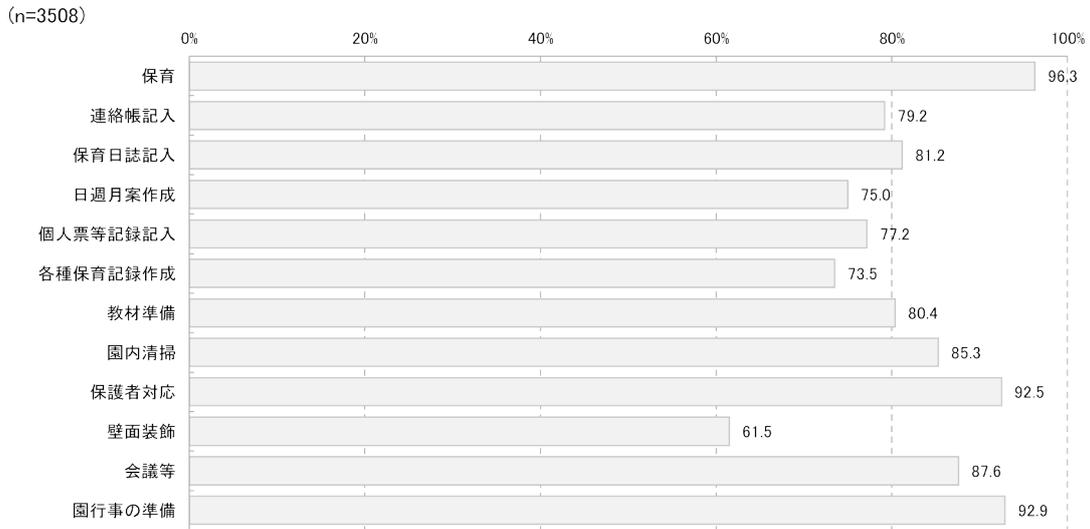
---

### 〈註〉

- \* 1 保育の現場におけるノンコンタクトタイムとは、通常の連続した8時間の勤務時間内で休憩時間とは別に、物理的に子どもと離れ、各種業務を行うことを指します。
- \* 2 経済産業省「保育現場のICT化・自治体手続等標準化検討会(第1回)」議事要旨：平成29年11月20日開催  
[http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/hoiku\\_ict/pdf/001\\_giji.pdf](http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/hoiku_ict/pdf/001_giji.pdf)  
経済産業省ホームページより原文のまま引用。

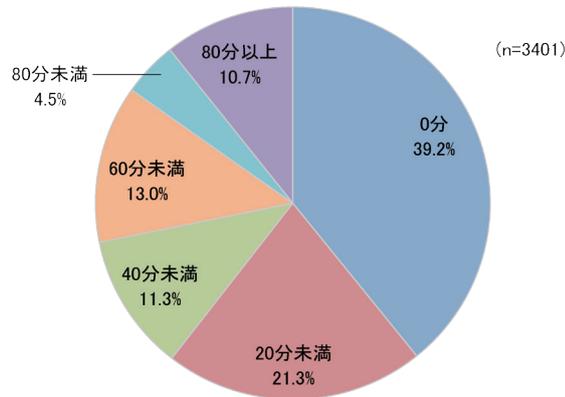
## 調査の結果

### Q1 現在、あなたの職務として含まれているものを選択してください。(複数回答可)

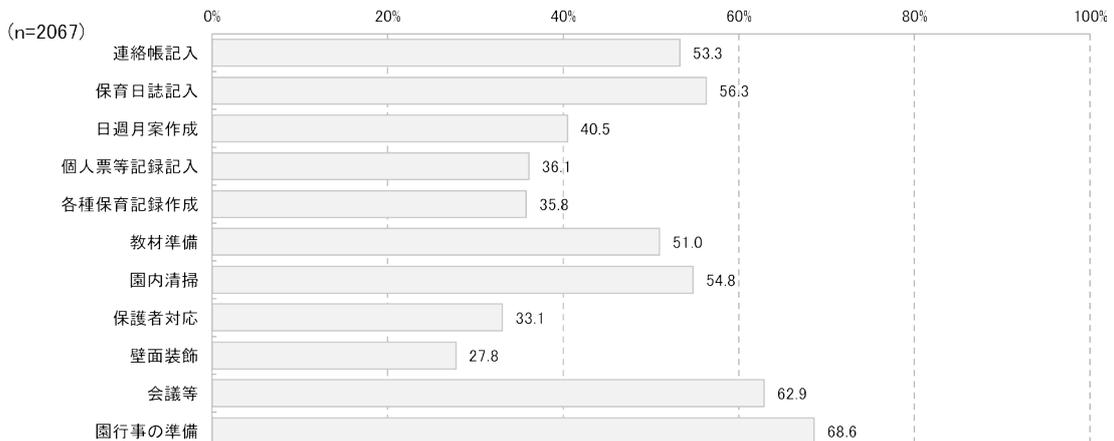


### Q2 1日の通常勤務の中で、直接子どもと関わらない時間はどれくらいありますか。

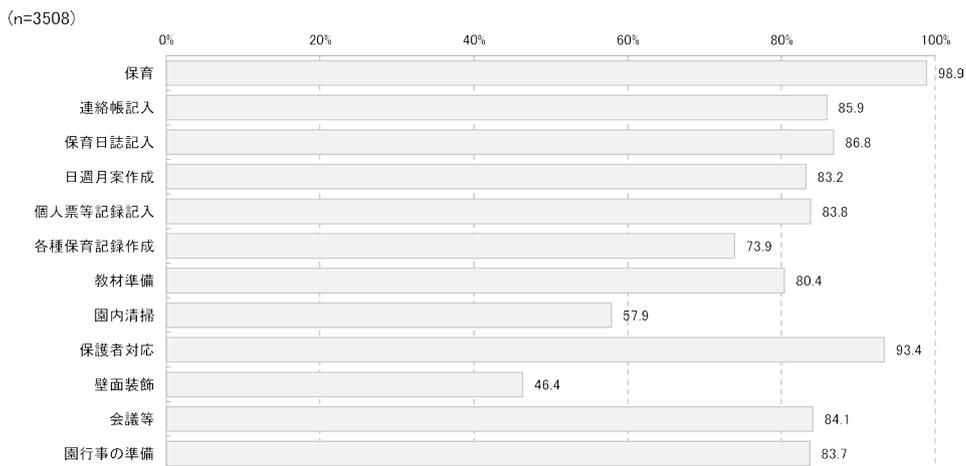
【ここでいう通常勤務とは連続する8時間の勤務時間のことで、休憩時間は除きます。平均時間をお答えください】



### Q3 1日の通常業務の中で、直接子どもと関わらない時間に、あなたはどのような業務を行っていますか。(複数回答可)

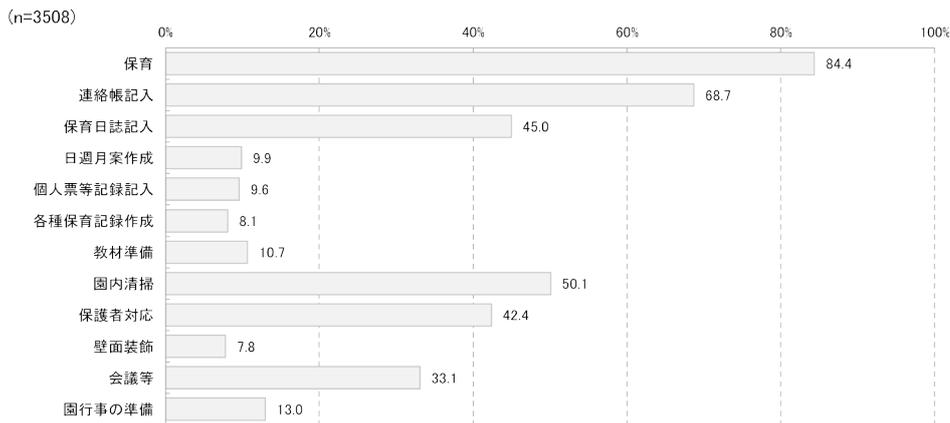


**Q4** 保育士・保育教諭の職務として必要だと思うものを選択してください。(複数回答可)



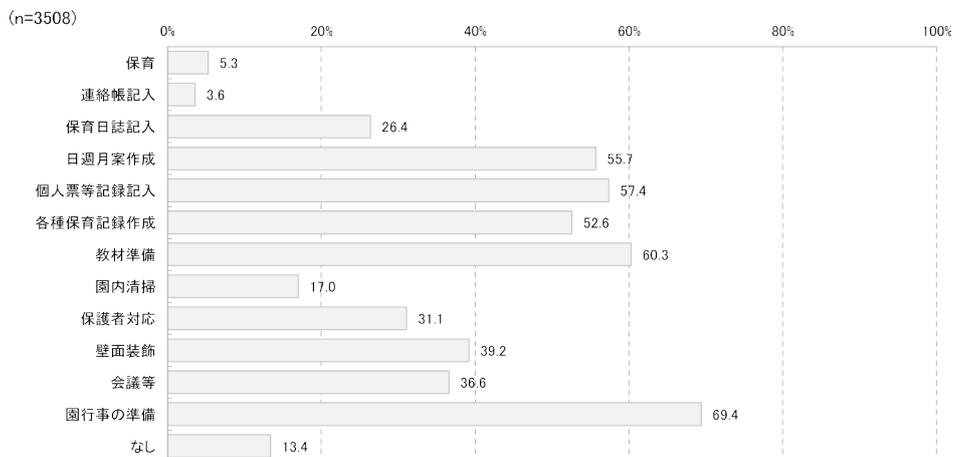
**Q5** あなたの職務のうち、通常勤務時間内に終了するものを選択してください。(複数回答可)

【通常勤務時間とは連続する8時間以内の勤務時間のことです】

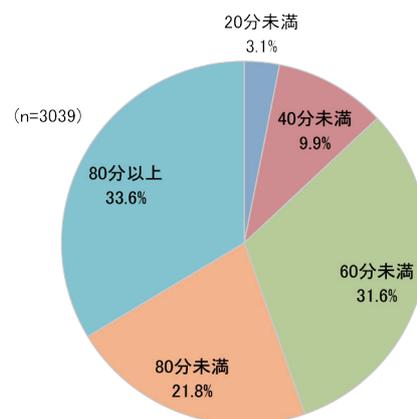


**Q6** あなたの職務のうち、通常勤務時間後に行っているものを選択してください。(複数回答可)

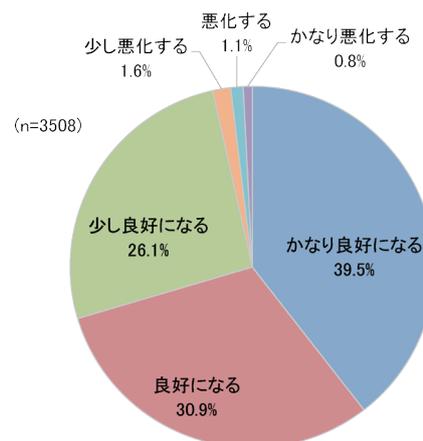
【通常勤務時間とは連続する8時間以内の勤務時間のことです】



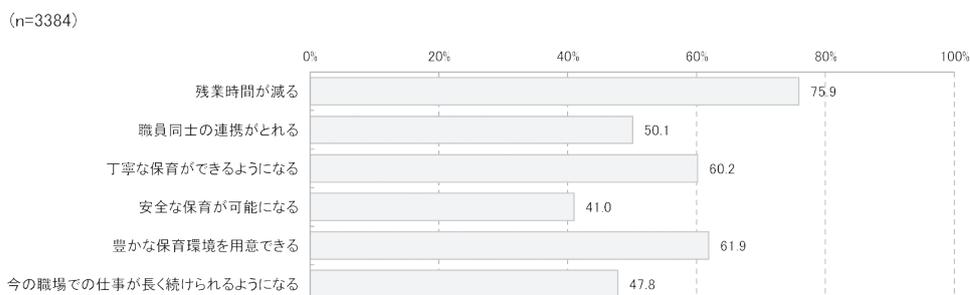
**Q7** あなたが通常勤務時間後に行っている職務をすべて行うには、1日に付き、どれくらいの時間が必要だと思いますか。



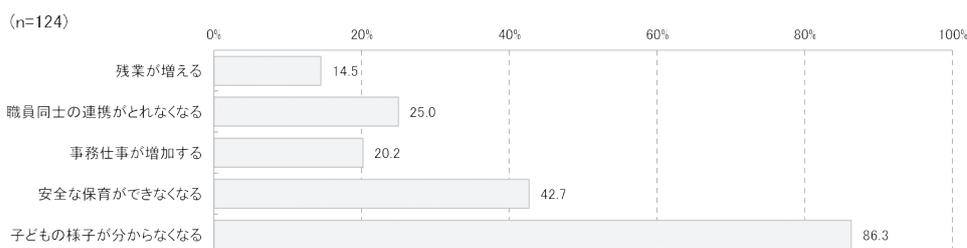
**Q8** 1日の勤務の中で、直接子どもと関わらない時間が取れた場合、あなたの仕事はどのように変化したいと思いますか。



**Q9** かなり良好になる、良好になる、少し良好になるとお答えになった方にお聞きします。どのように良好になるとお考えですか。(複数回答可)

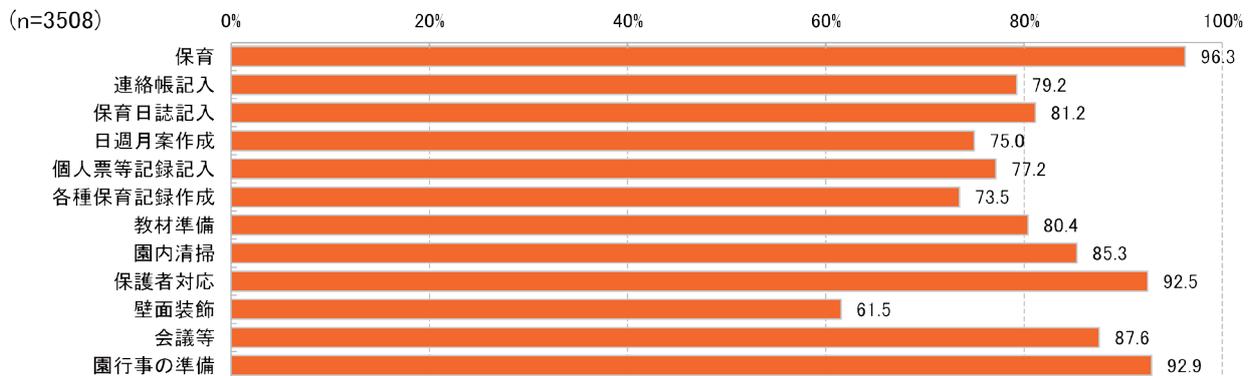


**Q10** かなり悪化する、悪化する、少し悪化するとお答えになった方にお聞きします。どのように悪化するとお考えですか。(複数回答可)



## 調査結果についての考察

**Q 1** 現在、あなたの職務として含まれているものを選択してください。(複数回答可)



### 考察 Q 1

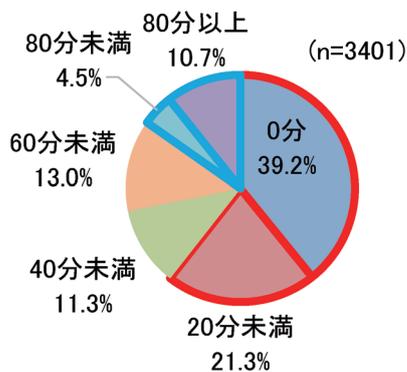
#### あなたの仕事の内容は？

保育が 100%に近いことは当然のことであるが、書類作成関連の職務が7～8割に止まっているのは、その職務を担当していない短時間や非常勤の保育士が回答しているためと考えられる。

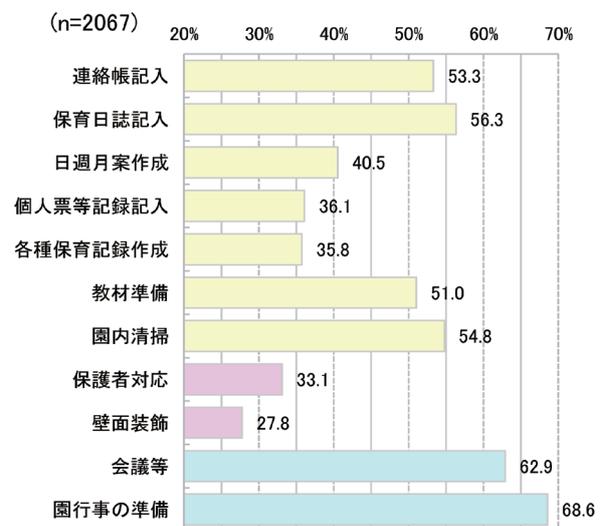
また壁面装飾については、6割強と目立って低い数値になっている。このことは、保育補助の職員に作成を委ねたり、そもそも壁面装飾はしていないといったことが考えられる。

**Q 2** 1日の通常勤務の中で、直接子どもと関わらない時間はどれくらいありますか。

【ここでいう通常勤務とは連続する8時間の勤務時間のことで、休憩時間は除きます。平均時間をお答えください】



**Q 3** 1日の通常勤務の中で、直接子どもと関わらない時間に、あなたはどのような業務を行っていますか。



## 考察 Q2・3

### NCT の実際

Q2でNCTはどれくらい確保できているかを尋ねたところ、約40%の保育士および保育教諭（以下、保育士等）が0分との回答であった。確保できたとしても20分未満が約20%であり、合わせて0～20分未満しか確保できない保育士等が全体の約60%を占めることが明らかになった（赤枠内）。一方、60分以上確保できている保育士等も16%ほど確認されている（青枠内）。

次に、Q3ではQ2でのNCT0分回答を除いた回答者へ、NCTでの業務内容を尋ねた。大まかに、6割の回答を超える園行事準備や会議（青棒）、回答3.5～6割の日記や連絡帳記入（黄棒）、回答3.5割以下の記録記入、壁面装飾（桃棒）の3つのグループに分けられるようだ。

そこで、NCTの確保時間別にどのような業務を行っているかを見たのが表1である。

表1 Q2Q3クロス		Q3 1日の通常勤務の中で直接子どもと関わらない時間に、あなたはどのような業務を行っていますか（複数回答可）											
		全体	連絡帳記入	保育日記記入	日週月案作成	個人票等記録記入	各種保育記録作成	教材準備	園内清掃	保護者対応	壁面装飾	会議等	園行事の準備
		(人)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
		2067	53.3	56.3	40.5	36.1	35.8	51.0	54.8	33.1	27.8	62.9	68.6
Q2 1日の通常勤務の中で、直接子どもと関わらない時間はどれくらいありますか	0分	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20分未満	724	53.0	51.5	34.1	29.4	28.0	43.0	53.7	25.4	23.1	49.7	55.5
	40分未満	385	55.8	67.3	45.2	40.0	38.7	54.5	49.9	25.7	28.6	61.3	66.5
	60分未満	442	61.3	65.6	51.8	46.6	43.2	59.0	51.4	29.4	32.1	66.3	76.5
	80分未満	153	73.9	71.2	52.9	52.9	53.6	62.1	64.7	39.9	37.3	75.8	80.4
	80分以上	363	32.8	36.6	29.5	25.3	31.4	49.0	62.0	57.9	27.0	81.3	82.1



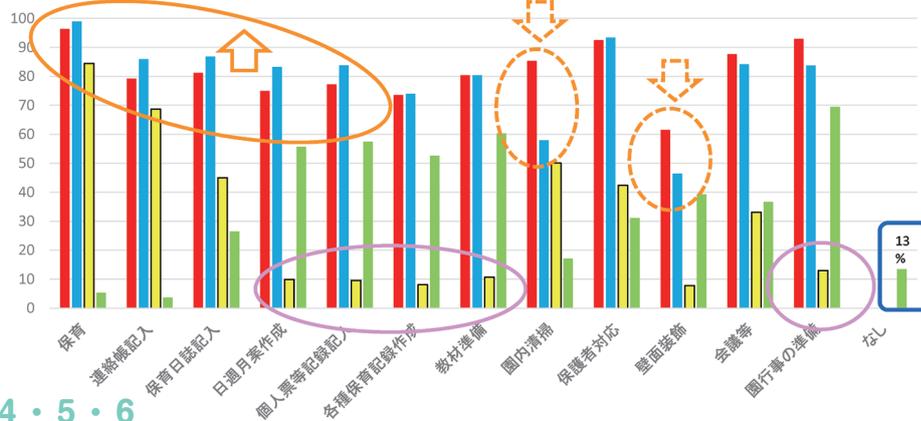
## クロス考察 Q2・3

### NCTが増えると仕事の幅が広がる？

NCT20分未満では、すべての項目において平均を下回り、業務における余裕のなさを示す結果となった。最も回答割合が多いのは園行事の準備であったが、平均値より10ポイント以上下回っているのは会議と行事の準備だった（緑枠）。定期的なミーティング等、少ないながらも職場内で確保されやすいNCTなのだろう。また、平均値より5ポイント以上下回っている日週月案や個人票、保育記録、教材準備等（赤枠）を後回しにして、直接保護者へ返さなければならない連絡帳や当日の保育の記録である日記の記入などに充てられている状況が読みとれる（青枠）。

NCTが増加するにつれてどの項目も回答が増加しているが、60分以上の時間が確保できる場合、様々な仕事における割合が増加し、柔軟に対応できていることがわかる（茶枠）。加えて、ほとんどの項目においてNCT80分未満の回答でピークとなっている。

Q1 現在、あなたの職務として含まれているものを選択してください。(複数回答可)  
 Q4 保育士・保育教諭の職務として必要だと思うものを選択してください。(複数回答可)  
 Q5 あなたの職務のうち、通常勤務時間内に終了するものを選択してください。  
 (複数回答可)【通常勤務時間とは連続する8時間以内の勤務時間のことです】  
 Q6 あなたの職務のうち、通常勤務時間後に行っているものを選択してください。  
 (Q6のみ「なし」の回答項目がある)



### 考察 Q1・4・5・6

#### 実際の仕事と思いのギャップ

Q4～6の結果については、回答項目が同じQ1とともに棒グラフで表した。

Q1 (赤) とQ4 (青) の比較において橙枠実線で示したように、実際の職務以上に必要性を感じている項目 (保育、連絡帳記入、日誌記入、日週月案作成、個人票記録) から保育士として保育の質の向上への意識の高さが読みとれる。

さらに、橙枠点線のように、実際の職務より低い割合で回答があった職務としては園内清掃、壁面装飾があった。どちらも5割程度の項目であり、環境整備としての必要性は認識しつつも、直接的な子どもの成長との関係が目に見えにくいいため、積極的には行われていないようだ。また、これらの項目については保育士以外の職種の人が担当していることも考えられる。

Q5 (黄) の通常勤務時間内に終了する職務としての回答が1割程度しかない書類作成・記入と教材・行事の準備について (桃枠)、続く設問Q6 (緑) では、通常勤務時間後に行っているものとして5割を超えて回答されている。保育の質を向上させるために必要不可欠な職務であるが、日常の勤務の中で終わることができないことを示している。その負担が実際に子どもたちと向き合う際の保育の現場で足かせになってはいないだろうか、離職率を高めてしまう要因になっていないか、と不安になる。

表2		Q1現在あなたの職務として含まれているものを選択してください												
		全体 (人)	保育 (%)	連絡帳記入 (%)	保育日誌記入 (%)	日週月案作成 (%)	個人票等記録記入 (%)	各種保育記録作成 (%)	教材準備 (%)	園内清掃 (%)	保護者対応 (%)	壁面装飾 (%)	会議等 (%)	園行事の準備 (%)
全体		3508	96.3	79.2	81.2	75.0	77.2	73.5	80.4	85.3	92.5	61.5	87.6	92.9
Q6	なし	469	86.6	47.3	39.7	32.4	34.8	31.1	43.1	57.6	58.4	26.9	48.8	61.8

Q6で通常勤務時間後に行っているもの「なし」に該当する保育士 13%について掘り下げてみる (青枠)。

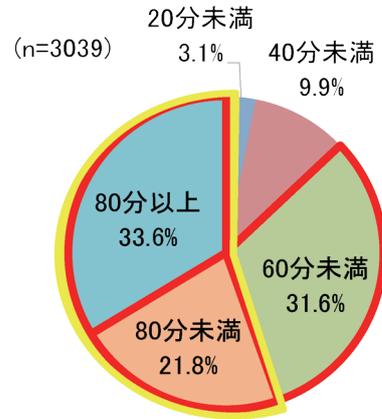
表2はQ6「なし」とQ1のクロスであるが、保育 86.6% に対し、他の職務の割合が全体平均の半分程度と圧倒的に少ない。これは、主に保育のみを行っている短時間や非常勤の勤務をしている保育士の回答割合が高いと考えられ、正規職員で通常勤務時間後に行っているもの「なし」に該当する保育士の割合はさらに下がるものと考えられる。

**考察 Q7**  
**必要な時間は？**

Q6で浮き彫りになった保育士の職務は、どれだけの時間があれば終われるのか実態に迫りたい。

Q7は NCT の確保の有無にかかわらず、通常勤務時間後に行っている職務をすべて行うにはどれくらいの時間が必要かを調査した結果である。全体の実に87.0%が40分以上(赤枠内)と回答し、半数を超える55.4%(黄枠内)が60分以上(80分未満~80分以上)と回答している。

**Q7** あなたが通常勤務時間後に行っている職務をすべて行うには、1日に付き、どれくらいの時間が必要だと思いますか。



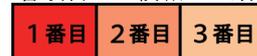
**クロス考察 Q2・7**

**現実 vs 理想**

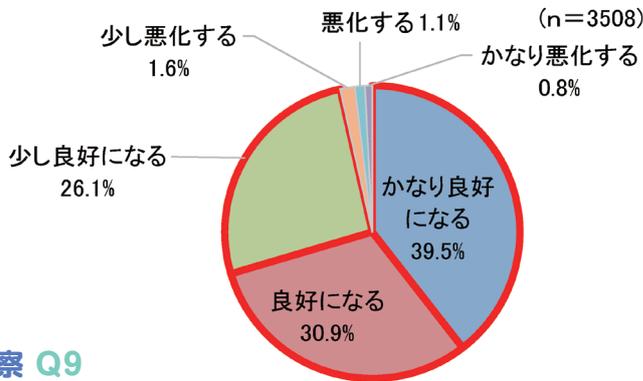
この結果を踏まえてQ2で尋ねた NCT の確保時間別でQ7を見たのが表3である。全体的に現在確保されている NCT 以上の時間が必要であるという傾向にある。現在 NCT が0分の場合、必要な時間で最も多かったのは80分以上であり、できることならば十分な時間が確保されることが望ましいという表れであろう。同じく、80分以上確保されている場合も、約半数(46.3%)が現状維持の80分以上必要との回答であった。興味深いのは、NCT が現在約20~60分未満確保されている場合で、最も回答率が高かったのが60分未満であることである(青枠内)。このことは、十分な NCT を望みつつも、概ね60分程度が現実的と考える保育士のバランス感覚からくるのだろう。

		Q7 あなたが通常勤務時間後に行っている職務をすべて行うには、1日に付き、どれくらいの時間が必要だと思いますか					
		全体 (人)	20分 未満 (%)	40分 未満 (%)	60分 未満 (%)	80分 未満 (%)	80分 以上 (%)
		3039	3.1	9.9	31.6	21.8	33.6
Q2 1日の通常勤務の中で、直接子どもと関わらない時間はどれくらいありますか	0分	1244	2.6	8.3	33.1	20.9	35.1
	20分未満	643	3.3	14.0	31.4	22.4	28.9
	40分未満	342	3.8	9.9	32.2	24.3	29.8
	60分未満	389	2.8	10.0	33.4	23.7	30.1
	80分未満	136	2.2	11.0	22.8	27.9	36.0
	80分以上	285	4.6	6.7	27.0	15.4	46.3

各項目での横軸での順位



**Q 8** 1日の勤務の中で、直接子どもと関わらない時間が取れた場合、あなたの仕事はどのように変化すると思いますか。



**考察 Q9**  
**NCTがあれば残業時間が減る**

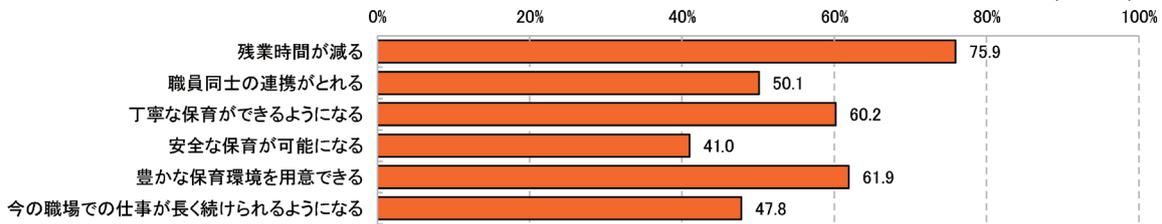
Q9は、NCT 好意的群に、どのように良好になるかを尋ねた結果である。最も多い「残業時間が減る」との回答で、保育士がいかに業務時間内に終わらない作業を抱えているのかを示している。その他の項目では、NCT があることで職務を前向きに捉

**考察 Q8**  
**NCTがあれば…**

Q8では、保育士の1日の勤務の中で直接子どもと関わらない時間、NCT が取れた場合、仕事がどのように変化するかを尋ねた。

程度の差はあるが、96.5% (赤枠) もの多くの保育士が NCT によって仕事、すなわち保育へのよい効果があると思っている。しかし一方で、「悪化する」と考える人も少数だが存在する。これは、「保育」という行為が子どもと接することで成り立つものという考えからくるものなのだろう。

**Q 9** 前問でかなり良好になる、良好になる、少し良好になるとお答えになった方にお聞きします。どのように良好になるとお考えですか。(複数回答可) (n=3384)



えられるという結果が得られ、その総合的な職務の向上によって、より長く続けられる職場となると考えているようだ。保育士の職場定着を考える際に、NCT によって約半数の人の意識が「長く続けられる」方向へ変わるのであれば、検討しないわけにはいかないだろう。表4は、Q8・9のクロス結果である。Q8・9によって NCT がよりよい保育、よりよい職場環境への要因となりうる可能性を明らかにしてきた。

しかし、表3で仕事はかなり良好になると見通しが持てる保育士は、Q9のどのようという設問にどの項目でもよいイメージを平均以上に持てている (赤枠) のに対して、少し良好になると回答した場合、Q9の各項目の回答割合がいずれも低かった (青枠)。見通しを持って職務を行えるよう、園全体としてのタイムマネジメントが必要であろう。

	全体	Q9 前問でかなり良好になる、良好になる、少し良好になるとお答えになった方にお聞きします。どのように良好になるとお考えですか(複数回答可)					
		(人)	残業時間が減る (%)	職員同士の連携がとれる (%)	丁寧な保育ができるようになる (%)	安全な保育が可能になる (%)	豊かな保育環境を用意できる (%)
Q8 ノンコンタクトタイムでどのように仕事が変わるか	3384	75.9	50.1	60.2	41.0	61.9	47.8
かなり良好になる	1384	83.2	58.3	74.3	54.7	73.6	63.6
良好になる	1083	74.1	48.1	58.1	36.9	60.7	44.0
少し良好になる	917	67.1	40.2	41.3	25.0	45.7	28.4

**Q10** 前問でかなり悪化する、悪化する、少し悪化するとお答えになった方にお聞きします。どのように悪化するとお考えですか。(複数回答可)

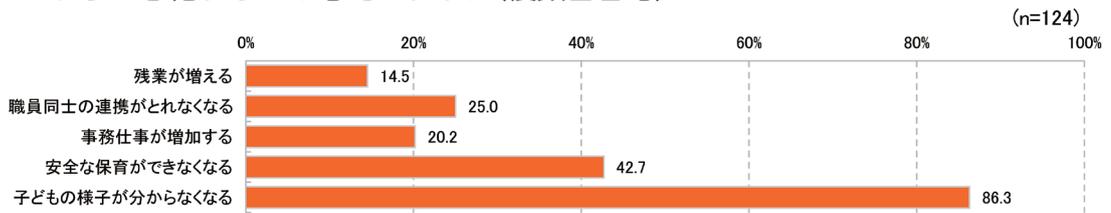


表5 Q10Q1クロス

Q1 現在、あなたの職務として含まれているものを選択してください(複数回答可)

	全体 (人)	保育 (%)	連絡帳記入 (%)	保育日誌記入 (%)	日週月案作成 (%)	個人費算記録記入 (%)	各種保育記録作成 (%)	教材準備 (%)	園内清掃 (%)	保護者対応 (%)	壁面装飾 (%)	会議等 (%)	園行事の準備 (%)
全体	124	94.4	51.6	50.0	45.2	45.2	45.2	46.8	62.9	64.5	40.3	60.5	62.9
残業が増える	18	94.4	88.9	88.9	83.3	83.3	88.9	83.3	100.0	100.0	88.9	100.0	100.0
職員同士の連携がとれなくなる	31	83.9	64.5	61.3	48.4	45.2	51.6	51.6	83.9	87.1	48.4	80.6	87.1
事務仕事が増加する	25	96.0	88.0	80.0	72.0	72.0	72.0	72.0	92.0	92.0	68.0	96.0	92.0
安全な保育ができなくなる	53	96.2	77.4	69.8	62.3	58.5	64.2	66.0	86.8	88.7	54.7	79.2	84.9
子どもの様子が分からなくなる	107	95.3	47.7	44.9	40.2	40.2	41.1	43.0	59.8	60.7	37.4	55.1	58.9

↓ DOWN (黄矢印)

↑ 値が離れている (青矢印)

### クロス考察 Q1・10

#### NCT への不安

Q8の設問で全体の3.5%という低い割合であったが、NCTに対して悪い影響を危惧する回答があった。そこでQ10では、NCT嫌気群に、どのように悪化すると考えるのかを尋ねた結果である。子どもの様子がわからなくなるといった意見が飛び抜けて多く、直接子どもと接している時間をより長く持つことで子どもを理解しようとする保育士が、その環境を離れて作業をするうえでの変化に対する心象を如実に表しているといえる。続いて、安全な保育ができなくなるといった意見が続くが、これは配置基準を満たしていても自分が現場から離れることにより、保育に直接携わる保育士が手薄になることへの不安が大きいと考えられる。

Q10の回答を理解するために、表5から考察してみる。保育を除くすべての項目において大きく割合が下がっている(黄矢印)ことから、短時間や非常勤の勤務をしている保育士の回答割合が高いのではないかと考えられる。また、残業の増加と事務の増加を危惧している回答ではQ1の回答の傾向に近いことから(赤枠)、2つとも回答している可能性が高い。NCTを設けることが、そのまま仕事量の増加につながると考えているようだ。

一方で、安全な保育と子どもの様子の把握を危惧する回答では、Q1の保育以外の回答が離れていることがわかる(青枠)。一見、子どもの様子がわからなくなるとを危惧する人であれば、安全な保育を心配するという点で共通するのではないかと考えるが、「子どもの様子」の捉え方を一人ひとりの内面的な個性の理解と考えれば、値の離れていることも頷ける。別の視点から「子どもの様子が分からなくなる」と回答した63%は、Q6で通常勤務時間後に行っている職務「なし」に該当することから、仮に現時点で保育のみを行う勤務形態(NCTがいらない)だとすると、子どもと接しないことがそのまま子どもの様子がわからなくなるにつながっているケースもあるのだろう。

最後に、「残業が増える」と答えた全員が、「園内清掃」「保護者対応」「会議」「園行事の準備」を行っていた。NCTの確保が、そのまま残業のイメージにつながったものとお考える(黒枠)。

インタビュー

# 保育現場の働き方改革につながっている 「保育体制強化費」

—千葉県八千代市の取り組み事例から

趣旨 NCT 取得による保育体制の強化を趣旨とした  
独自の予算措置を行っている自治体、  
千葉県八千代市の担当者に、その思いを尋ねた。

日時 2018年12月20日14時30分～15時30分

場所 八千代市役所 会議室

出席者 子ども部次長（子育て支援担当）須藤泰子氏  
子ども部子ども保育課課長 平田博史氏  
子ども部子ども保育課主事 後藤裕介氏

聞き手 全私保連調査部（丸山純部長、鷹橋賢淳副部長）

〈基礎データ〉

八千代市人口 198,858人（2018年12月31日現在）

保育施設数 総数35園（公立8、私立15、認定こども園6、小規模6）

## 新制度によって創設された市単独の支援策

**調査部**／（公社）全国私立保育園連盟調査部では、2018年9月～11月に、Web調査の形で「ノンコンタクトタイム調査」を実施しました。

現在、国の施策として処遇改善も進められていますが、保育の現場は、そこに携わる人たちの“自発的な頑張り”によって長く支えられてきたからでしょうか、調査結果からは、保育現場でのNCTの取得の難しさが見えてきました。子どもたちのこと

ではなく労働環境の改善ということになると、優先順位が下がってしまう傾向を実感しています。ただ、そういった状況だからこそ、NCTは、保育の質の向上とも連動しながら、保育者の労働環境の充実に着目していくキーワードになるのではないかと考えています。

そして、今回の調査に合わせて、千葉県八千代市の単独補助金「保育体制強化費」に注目させていただきました。私たちは、NCT調査以前に、知り合いの園長先生から八千代市の「保育体制強化費」のことを伺ったことがあり、自治体の手厚い支援策に驚

いた記憶があります。

子ども・子育て支援新制度のスタートによって、「国が面倒見てくれるなら」と、保育の現場への独自支援策を引き上げた自治体も多い中、八千代市は「保育体制強化費」を追加整備された。その趣旨や背景等を伺い、調査報告として課題提起に役立てることができればと思っております。

では、まず、市単独補助金「保育体制強化費」はどのような補助金なのでしょうか？

**須藤**／「保育体制強化費」は、保育環境の改善のために、市単独で設定しているものです。「八千代市保育園等運営費補助金」のメニューの1つとして、用務員や駐車場の誘導にあたる交通整理員、保育の周辺業務に従事する保育補助員等、保育を様々な形で支援する職員を位置づけている私立保育園等を対象に設けています。

**調査部**／「保育体制強化費」を予算化した経緯もお聞きしたいと思います。何か大きなきっかけがあったのでしょうか。

**須藤**／2015年4月の「子ども・子育て支援新制度」の施行に伴い、園の運営は施設型給付費で行われるようになり、この給付費には保育士等の処遇改善目的とした加算が盛り込まれましたが、八千代市では、新制度前から公私間の処遇の是正を目的とした市単独補助金を交付していましたので、保育士の確保・定着を図るには、さらに「労働環境の改善」を図ることが重要と考え、「保育体制強化費」を創設しました。

**調査部**／八千代市では、保育士の確保、定着などはいつ頃から課題となっていたのでしょうか。

**須藤**／確保が難しくなってきたのは、新制度になる少し前だったと記憶しています。

**調査部**／国の制度の流れに先んじて、保育現場の労働環境に重点的に取り組む必要があったのですね。

**須藤**／そうですね。

**調査部**／補助金の趣旨についても、もう少しお話を伺えますか。

**須藤**／先ほどもお伝えしましたが、「八千代市保育園等運営費補助金」自体が、公私間格差是正のために交付してきたものです。したがって、そのメニューの1つ「保育体制強化費」も、私立と公立保育園の職員体制が同水準に保てるように、人件費補助を受けていただくという趣旨があります。私立と公立の労働環境が同水準に改善されることが、同じ八千代市内で保育を受けるお子さん自身の処遇改善、福祉向上につながるという思いがあります。

補助金創設にあたっては、私立保育園のご協力をいただき、現に保育補助や保育の周辺業務に従事している方の状況について調査しました。その調査をもとに、支援のポイントを検討しました。最終的には、保育者の働きやすい環境は、子どもたちもイキイキと暮らすことができる環境であるとの共通理解により創設されました。

**調査部**／素晴らしい趣旨ですね。今どのくらいの施設がこの予算を活用されているのでしょうか。

**須藤**／実績としては、2017年度、市内私立保育園等19施設中18施設に。2018年度は見込みとなりますが、21施設中19施設に交付予定です。

**調査部**／補助金を交付している施設には、用務員、交通整理員、保育補助員などが置かれ、業務の役割分担を明確にし、NCTにより集中できているということですね。公私間格差の是正については、八千代市に限らず、千葉県内では意識されているのでしょうか。

**須藤**／県内全域のことですので、詳細については把握しておりませんが、特に都市部の自治体では公私間格差の是正は図られているようです。

### ノンコンタクトタイムにつながる 先駆的取り組みとして

**調査部**／私たち調査部がNCTを1つのキーワードにしているのも、現在進行中の処遇改善策に相まって、保育士等の労働環境改善につながればという思いがあるのですが、八千代市のご担当者として、NCTについてどう受けとめておられるかお聞かせいただけますか。

**須藤**／貴団体の調査結果を拝見したところ、保育士のほぼ100%は子どもたちとの関わりを持っています。けれど、実際には、連絡帳作成、保護者対応、園行事準備等、保育には様々な業務があります。

子どもたちが常に目の前にいて、ミーティングも午睡の間に掻い摘んでされている。もちろん、午睡の時間といっても目が離せないですし、食べる、遊ぶ、寝ると、保育士は日々業務に追われています。そのうえ、家庭や社会の子育て環境の変化により、保育園へのニーズは多様になり、子どもたちの個々の育ちも重要視されています。保護

者対応では、連絡帳の書き方にも配慮をされたり、多忙な毎日を送られているのではないかと考えています。

また、子どもたちを目の前にすれば、事務はつい後回しになってしまい、勤務時間内で終わらず、時間外勤務や時には“持ち帰り”仕事となっている現状ではないでしょうか。中には、常に保育のことを考えている、という保育士も多いのではないのでしょうか。

本市では、「保育士は子どもの頃からの夢」という保育のお仕事が好きの方は、かえって、事務を後回しにせざるをえない状況から業務の負担感が増し、追い込まれてしまうのではないかと懸念しているところです。

「保育体制強化費」を実施している園からは、「保育補助員などの配置によって日中に保育準備や事務ができる」「遊具の片づけをお願いして、その間に事務をしている」という声や、保育士が、これまで子どもたちとも向き合いながら、数分単位でやりくりしていた保育準備や事務を、子どもたちとの関わりから一旦離れてできるようになったので、集中できて、時間外勤務の軽減につながったという声もいただいております。

また、事務時間の集中が、保育の共通認識にもつながり、結果的に保育自体の改善にもつなげられ、非常に効果的であったとも伺っています。

短時間であっても、子どもたちと関わらない時間であるNCTを設け、打ち合わせができる、事務ができる、集中できる時間が確保されれば、保育士間の共通認識が図られ、業務の負担感の軽減や、子どもたち

に対してきめ細やかな保育ができると考えております。

**調査部**／私たちも、従来 NCT ということを考えたことがなかったので、画期的な考え方だと感じました。先ほど須藤さんもおっしゃっていましたが、保育士は子どもたちのことが好きなだけに、そこにしっかりと関わりすぎてしまうということはあるんですね。

**須藤**／そうですね。保育士は子どもの頃からの夢という方は多いです。

**調査部**／「私が見てあげたい」という思いから、NCT も頭ではわかるけれど、身体がついていかないところもあるのではないのでしょうか。熱心だからこそ浸透していかない。

**須藤**／やはり目の前にお子さんがいれば、すぐに反応してしまうと思います。そのために、事務や打ち合わせが途絶えることはあるだろうと思います。

また、保育士が自宅に仕事を持ち帰ることが常態化しているとすると、個人情報保護の問題も出てきます。個人情報、園内に留めることが一番の策ですし、その視点が保育士を守ることにもなっていくという視点も持っております。どこかに置いてきてしまった、紛失してしまったという状況を招いて、保育士が追い詰められないためにも、時間外勤務を減らすということに意味があると思います。

ICT 化も、使いこなし、入力する業務の時間が確保できなければ、効果がありませんからね。

**調査部**／ ICT 化の効果的な定着にはまだまだ

だ時間がかかりそうですね。

では次に、八千代市としての、子育てや子どもたちへの思いをお聞きしたいと思います。

## 八千代市としての子ども・子育てへの思い

**須藤**／市長は公約の中で「子どもが第一の市政」を掲げております。市として「緑豊かな環境で、安心して子育てができる八千代市に」という目標を掲げて、「子どもが第一の市政」の視点は大きな柱に据えています。

八千代市は、出生率は減少傾向にありますが、子ども人口は横ばいです。ただ、住宅等の都市計画も進行している中で、保育園における待機児童数は2018年4月1日付で144名となっており、新制度施行後も増加し続けています。そのため、待機児童解消は喫緊の課題と捉えており、安心して子育てができる環境づくりの構築を目指しています。

待機児童解消の施策としましては、保育士確保と受け皿確保が重要と考えております。私立保育園の常勤保育士に対して月額3万円を支給するという「保育士処遇改善補助金」を2017年度10月よりスタートさせ、保育士確保と定着に対して一定の効果が出ていると市内保育園から声が寄せられています。

受け皿確保の策としましては、八千代市子ども・子育て支援事業計画に基づいて、施設整備を行っております。2019年4月に認可保育園5施設の開設へ向けて準備をし

ております。この5施設によって360名の定員拡大が見込まれています。

**調査部**／今日、市役所に伺った際に、子ども部の前にたくさんの小さなお子さんがいてびっくりしました。とつてもにぎやかで、窓口が保育園のようでしたね。

**須藤**／2019年4月1日からの保育園入園申込の締切日が2018年12月28日のため、その申請をされる方がいらっやっています。

**調査部**／福祉にかける思いが反映されると思うのですが、市の予算に関するお話をお聞かせいただけませんか。

**須藤**／2018年度当初予算におきまして、全体予算が55,538,000千円で、そのうち福祉分野費は24,009,230千円となっております。福祉分野の構成比率といたしましては、全体予算の43.2%となっております。

保育に限らず他福祉分野も含まれますが、本市予算内で占める割合は大きいかと思えます。

**調査部**／介護等を含めてということですね。それにしても、高い割合だと思います。「子どもが第一の市政」というだけなら簡単ですが、そこへ実際に予算を組むことは、大変なご苦労だと思います。

次に、今1つの節目を迎えている「子ども・子育て会議」についてお話を伺いたいと思います。八千代市の会議には様々な分野の方が参加されていると伺っておりますが、どのような構成で開催されているのでしょうか。

**須藤**／「八千代市子ども・子育て会議条例」で定められている委員構成は15名以内で、子ども・子育て支援法第6条第2項に規定

されている「子育て中の保護者」「子育てに関心のある市民」、同法第7条第1項に規定されている「子ども・子育てに関する事業に従事する者」「学識経験者」「その他市長が認める者」となっております。

子ども・子育てに関する事業に従事する者として、全私保連からもご参加いただいております。その他にも認定こども園・幼稚園・小規模保育事業所の代表者もそれぞれご出席いただいております。保護者、市民に関しましては、一般公募で、応募いただいた方から選定させていただきます。

学識経験者に関しましては、児童福祉分野、幼児教育分野、お子さんから成人の方を含めて障害のある方に学識の深い、3名の方にご出席いただいております。その他市長が認める者に関しては、市内小学校の校長先生等にご出席いただいております。

**調査部**／まもなくニーズ調査をされるという動きの中で、子ども・子育て会議の方に助言をいただくというような関係性もあるのでしょうか。

**須藤**／子ども・子育て支援法に基づき、保育に係る定員の設定とニーズ調査についてはご意見をいただくというかたちになっておりますので、そのようにしております。12月は先週開催したばかりで、ニーズ調査の項目にご意見を頂戴した次第です。

**調査部**／八千代市の方向性等に意見が出ることもあるのでしょうか。

**須藤**／様々なご意見を頂戴しております。特に、八千代市が県内でも待機児童数が多い自治体のため、その点への関心も高いですね。

**調査部**／それが喫緊の課題とされているところなのですね。ちなみに、「保育体制強化費」は継続されるのでしょうか。

### 結果として、子どもたちの 保育環境のための取り組みに

**須藤**／私立保育園と公立保育園の格差是正が設立した目的ですので、市内のお子さんの保育環境改善も含めて、予算確保に努めたいと思っております。

**調査部**／公私間格差の是正については、労働条件の均一化に留まらず、そこを改善することで保育の質の向上につながるという思いが背景にあるわけですね。

**須藤**／どの施設に通っているかは関係なく、市内のお子さんは一緒に育てていくと考えることは非常に重要であると捉えています。

**調査部**／事業者としても、補助金を、保育の質の向上で還していくという大きな責任があるわけですね。近年、自治体によっては、「気持ちはわかるけれど、お財布状況が…」というところも多く、公私間格差を埋めるといっても、八千代市の取り組みは簡単にはできないのではないかと思います。

**須藤**／たまたま八千代市では、特化している市単独補助金のメニューではありますが、他の自治体でも他の形で担保されたり、補助をされていることも多いと思います。施設型給付費がスタートし、国の補助と市の補助の役割を整理していく中で、市として必要なものは何かと考え 2015 年より始まったものです。

**調査部**／新制度をきっかけに始められたという経緯には本当に驚きました。

**須藤**／そこは苦肉の策でした。予算が潤沢にあるという訳ではなく、調査等を行いながらスタートしたので、すでにあるものを整理しながら創設したという感じです。施設の老朽化等、改善しなければいけないことは他にもあります。全体予算の4割強を福祉分野が占めていることから、市の財政としては何が必要なのか、それは有効なのか常に考えております。

### 私立園へのメッセージ

**調査部**／今回は、私立保育園による全国組織、全私保連調査部の活動として伺っております。私立保育園は個々に保育現場を持っていますが、昨今の社会情勢の急激な変化に対峙していくため、諸課題には力を合わせて乗り越えていこうとする動き、取り組みが生まれてきています。最後に、八千代市で保育行政に携わっていらっしゃる須藤さんから、これからの私立保育園に期待することをメッセージとしてお聞かせいただけないでしょうか。

**須藤**／貴団体の機関誌『保育通信』は、保育に関係する部内で回覧させていただいております。内容も興味深く、学ぶところも多いと考えております。

子育て世帯の保育ニーズや働き方が多様化してきており、子どもたちの育ちも複雑になっていると感じております。保育の量だけではなく、質の確保も重要という課題の中では、乳幼児期は人間形成の非常に重要な時期であると実感しております。十分に養護が行き届いた中で幼児教育を受ける

体制が大事です。そういった環境を確保していただきながら、「子どもの元気がみえるまち」というのが、八千代市の子ども子育て支援事業計画の理念ですので、今後も私立保育園の皆様にご理解・ご協力をいただきながら、一緒に進んでまいりたいと思っている次第です。

公立保育園が足りないところを、私立保育園の実践から学ぶことも多くあります。お誘いいただき、研修を一緒に受けることもあります。子どもたちに向き合う「保育」を通して、共通認識しながら進めていきたいと思っています。

**調査部**／公立保育園主催の研修会に、私立保育園の職員が参加したり、逆もあるとのことで、お互いに垣根なくお付き合いをされているのですね。

**須藤**／私立保育園が開催される研修会は、事故への対応等、重要なテーマを取りあげておられ、貴重な機会をいただいております。また、講師をお呼びする予算は、公私で有効活用できればと思っています。今後もそういったところは大事にしていき

いと思っています。

**調査部**／補助金を切り口にお話を進めさせていただきました。保育体制強化費も「公私間格差の是正のため」と一言で回答してしまえば簡単ではありますが、子どもたちの育ちを共通な課題として捉え、全体で取り組んでいきたいという八千代市の思いが、具体的に表れている補助金であるということがよく理解できました。

都市でありながら、就学前の子どもたち一人ひとりが見えるような生活が成り立つよう施策が散りばめられていると感じさせていただきました。本日は、本当にありがとうございました。

**須藤**／ありがとうございました。

#### \*インタビューを終えて

千葉県八千代市の「保育体制強化費」は、今回の調査テーマである NCT の取得において効果的な予算措置だと感じました。

市としての願い、考え方、施策すべてを参考に、各地の保育現場、保育行政において「こうすれば、NCT が確保できる」という、より具体的な動きにつながることを期待しています。

……全私保連調査部



## 「ノー」なのか「ノン」なのか？

本調査の企画段階そして、調査実施時には調査題名を「ノーコンタクトタイム調査」としていました。しかしその後、先行研究、論文等を見ていくと「ノンコンタクトタイム」と記している事例が多いことに気づきました。英文法的に見ると、「no」は形容詞です。「non」は接頭辞となっています。「no」は本来の英語、「non」はフランス語由来の英語という違いもあります。例として [no problem = 問題ない] [non stop = 直行する] などがあります。「no」の場合、名詞の前にプラスされることで、そのものを0（ゼロ）にする意味あいがあります。一方「non」は名詞にプラスすることで「非」や「不」の意味を加える効果があります。

このことについて大学の英文学科教授に助言を求めましたが、「どちらも不正解ではない」とのことでした。「ノー」でも「ノン」でも、その意味において大きな差はないのかもしれませんが、保育の世界に新しく入ってきた用語だけに、より丁寧に扱いたいと調査部では考えました。その結果、先行研究を尊重し「ノンコンタクトタイム」で表記を統一することといたしました。このことにより、調査依頼書と調査報告書の題名に違いが生じることとなりました。報告書の最後になりますが、この点を修正しお詫びいたします。

## 保育の「質」その確保のために

今回の調査は、主な回答手段として、スマートフォンを想定した初めての調査でした。そのため、SNS を利用した調査の告知など、関係する皆様には多くのご協力をいただきました。初めに、このことへの感謝を申し上げます。ありがとうございました。おかげさまで短期間に多くの回答を得ることができました。

インターネットで「保育の質」と検索をすると、実に多くの結果が表示されます。その中で、厚生労働省に2018年度「保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会」が設置され、9月末までに6回の会議が開催されました。この検討会で話し合われた点については、厚生労働省のホームページに掲載されていますので、ぜひご覧になっていただければと思います。

この中で1点だけ紹介させていただきたいのは、9月末に示された「中間的な論点の整理」です。保育の現場における保育実践として、「**各保育所等において、「子ども」を中心に捉え、組織的に保育の質を確保・向上させていくには、職員が率直に語り合い、互いに支え学び合う関係性（同僚性）の下、園長がリーダーシップを発揮し、職員間の対話を通じて、各保育所等における保育の理念を明確化することが必要である。**その上で、そうした理念や現場の実情等

に関する情報を園全体で共有し、個々の職員がそれらを念頭に置いて日常の保育に当たることが重要である。」と記され、職員間の対話を通じた園全体での保育の理念・情報の共有を重ねていくことが、保育の質を下支えすると明記されていること<sup>\*3</sup>です。

では、どのようにして職員が互いに支え学び合う関係性を構築することができるでしょうか。人的・時間的にも余裕のある労働環境こそが必要ではないかと私たちは考えます。保育施設の開所時間は11時間を基本としながらも、多様化するニーズに合わせ、大多数の施設ではそれ以上の時間が開所時間となっています。保育認定における保育標準時間は11時間、しかし現実に延長保育の利用等でそれ以上の保育時間になっていることも珍しくはありません。

その一方で、労働基準法には「使用者は、原則として、**1日に8時間、1週間に40時間**を超えて労働させてはいけない。」と明記されています（太字は、調査部による）。保育施設の公定価格において、職員の労働時間は8時間を基本として設定されています。保育を職務とする者は、子どもと接することが、その職務の中心となるのは当然のことです。しかし、労働時間中のすべてが直接的な保育に充てられてしまっは、職員同士が語り合い、学び合うことは不可能になってしまいます。

飲食業を例に考えると、客と直接関わらない時間を設定していないなど考えることができません。むしろ、客がいない時間に行う準備作業や、仕込み等こそが店の価値を左右するといっても過言でないはずで、保育園・認定こども園では、飲食業の準備作業や仕込みにあたる、保育環境の整備や、日々のミーティングに充てる時間が公定価格の中に保障されていません。一部の園では、その園の自助努力により、NCTを実施している例もありますが、すべての施設でNCTが確保できるような制度設計が望まれているのではないのでしょうか。

## 私たちが考えるべきこと

制度の改善、向上を求めるのは当然のこととして、私たちが今まで当たり前に行ってきた保育のあり方を考え直すことも同時に必要ではないのでしょうか。ついては、前項にある各設問への考察でも触れていますが、クロス集計表を用いて今一度考察を記したいと思います。

Q1とQ4の集計を比較すると、「園内清掃」が職務の範囲であると答えている割合は、連絡帳記入や各種記録作成よりも高い数値（85.3%）を示していますが、その必要性については低く感じている（57.9%）となっています。「壁面装飾」においては、現在の職務としても（61.5%）、必要性としても（46.4%）、いずれも低い数値となっています。

「壁面装飾」の項目を例にとり、クロス表A（勤務時間内に終了する職務）、クロス表B（勤務時間内に終了しない職務）を比較すると、NCTが十分に確保できていない場合、その多くが勤務時間終了後に行われており、その割合は日週月案や各種記録の割合に匹敵しています（クロス表Bの□内に注目）。

## NCT考察～その2

<GT表～Q1、Q4より>

Q1	職務として含まれているもの 複数回答	N	%
1	保育	3,377	96.3
2	連絡帳記入	2,780	79.2
3	保育日誌記入	2,847	81.2
4	日週月案作成	2,630	75.0
5	個人票等記録記入	2,707	77.2
6	各種保育記録作成	2,578	73.5
7	教材準備	2,821	80.4
8	園内清掃	2,994	85.3
9	保護者対応	3,244	92.5
10	壁面装飾	2,159	61.5
11	会議等	3,073	87.6
12	園行事の準備	3,258	92.9
	全体	3,508	100.0

Q4	職務として必要だと思うもの 複数回答	N	%
1	保育	3,468	98.9
2	連絡帳記入	3,012	85.9
3	保育日誌記入	3,046	86.8
4	日週月案作成	2,920	83.2
5	個人票等記録記入	2,938	83.8
6	各種保育記録作成	2,594	73.9
7	教材準備	2,822	80.4
8	園内清掃	2,031	57.9
9	保護者対応	3,276	93.4
10	壁面装飾	1,627	46.4
11	会議等	2,949	84.1
12	園行事の準備	2,936	83.7
	全体	3,508	100.0

### 【園内清掃】

・現在の職務としては、連絡帳や各種記録類よりも高い割合(85.3%)を示しているが、必要度については低いと感じている(57.9%)

### 【壁面装飾】

・現在の職務としても、必要度についても低い。(Q1現在職務→61.5%、Q4必要度→46.4%)

園内清掃や壁面装飾については保育環境整備に直結するものであるが、「本当に職務として必要か?(Q4)」と感じていることがわかった。そこで、次に園内清掃や壁面装飾をどのような場面でやっているかを3重クロス集計で見てみた。

クロス表A<3重クロス～Q1+Q2～Q5より>

【表例1】Q1 現在、あなたの職務として含まれているものを選択してください。(複数回答可)  
【表例2】Q2 1日の通常勤務のなかで、直接子どもと関わらない時間はどれくらいありますか。

Q5 あなたの職務のうち、通常勤務時間内に終了するものを選択してください。(複数回答可)  
【通常勤務時間とは連続する8時間以内の勤務時間のことです】

	全体	保育	連絡帳記入	保育日誌記入	日週月案作成	個人票等記録記入	各種保育記録作成	教材準備	園内清掃	保護者対応	壁面装飾	会議等	園行事の準備
	(人)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体	3401	83.9	70.8	46.4	10.2	9.9	8.4	11.0	51.7	43.7	8.1	34.2	13.4
園内清掃													
0分	1220	86.2	78.8	49.2	8.0	8.5	6.2	9.3	58.1	47.5	8.9	32.2	9.8
20分未満	638	84.2	76.8	46.7	10.3	12.7	8.3	8.9	56.6	42.3	7.4	31.8	11.9
40分未満	334	85.9	77.2	54.2	14.4	10.2	10.2	13.2	58.7	41.0	7.8	35.9	14.1
60分未満	380	87.4	73.2	55.0	16.1	15.3	13.2	17.4	57.6	48.7	9.2	38.4	17.4
80分未満	131	84.0	74.0	49.6	12.2	9.9	13.0	15.3	61.1	38.9	13.0	42.7	13.7
80分以上	291	81.4	42.6	30.8	8.2	7.6	8.9	13.4	66.7	44.0	9.6	40.2	21.6
全体	3244	84.9	72.5	47.6	10.2	10.0	8.6	10.8	52.2	45.8	8.1	34.7	12.8
壁面装飾													
0分	995	87.0	80.3	48.1	8.1	8.2	6.6	9.5	55.6	47.0	11.2	33.1	9.2
20分未満	464	83.8	80.2	48.5	9.1	11.9	8.6	8.2	52.4	43.5	11.0	31.7	11.2
40分未満	232	85.3	78.0	56.5	15.9	9.9	10.3	11.2	52.2	40.5	12.5	33.6	12.5
60分未満	246	89.4	80.1	58.5	17.1	14.6	11.4	17.1	56.1	46.7	15.0	37.4	14.2
80分未満	84	86.9	81.0	53.6	13.1	7.1	13.1	13.1	56.0	40.5	22.6	48.8	14.3
80分以上	138	89.9	58.0	44.2	11.6	10.9	10.1	13.8	63.0	51.4	20.3	40.6	16.7
全体	3073	84.1	72.0	47.7	10.2	9.4	8.5	10.5	51.7	43.7	7.8	37.8	12.4

勤務時間内に終了

クロス表B<3重クロス～Q1+Q2～Q6より>

【表例1】Q1 現在、あなたの職務として含まれているものを選択してください。(複数回答可)  
【表例2】Q2 1日の通常勤務のなかで、直接子どもと関わらない時間はどれくらいありますか。

Q6 あなたの職務のうち、通常勤務時間後に行っているものを選択してください。(複数回答可)  
【通常勤務時間とは連続する8時間以内の勤務時間のことです】

	全体	保育	連絡帳記入	保育日誌記入	日週月案作成	個人票等記録記入	各種保育記録作成	教材準備	園内清掃	保護者対応	壁面装飾	会議等	園行事の準備	なし
	(人)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体	3401	5.5	3.8	27.3	57.5	59.2	54.3	02.2	17.6	32.1	40.5	37.7	71.6	10.6
園内清掃														
0分	1220	6.7	4.5	33.5	69.3	72.5	66.5	73.8	22.3	34.7	55.2	43.0	80.4	5.7
20分未満	638	6.9	3.8	30.4	61.8	62.1	57.7	69.0	20.1	31.2	41.4	37.8	73.7	9.6
40分未満	334	4.2	3.0	23.1	56.3	65.0	54.8	59.9	16.8	31.1	36.8	39.2	70.7	10.2
60分未満	380	3.7	1.6	22.6	53.2	52.1	46.3	59.7	17.6	26.8	35.0	32.6	70.0	9.7
80分未満	131	6.9	6.9	25.2	53.4	58.8	49.6	59.5	19.1	29.0	37.4	32.1	68.7	10.7
80分以上	291	2.1	4.1	16.8	35.7	32.3	33.7	43.3	17.2	33.0	26.1	35.4	63.2	18.6
全体	3244	5.6	3.9	28.3	59.8	61.6	56.7	64.6	18.3	33.6	42.1	39.2	73.9	8.4
壁面装飾														
0分	995	6.6	4.5	35.4	71.8	74.8	68.7	76.4	21.9	35.2	70.1	42.9	82.2	4.7
20分未満	464	7.3	3.4	32.5	69.6	68.5	64.7	76.1	19.4	31.5	60.3	40.9	78.9	5.2
40分未満	232	3.9	3.0	23.7	62.5	72.0	63.8	68.5	16.8	33.2	56.5	43.5	77.2	5.6
60分未満	246	2.8	0.8	27.6	62.2	61.4	55.3	65.9	15.9	26.8	57.3	37.8	74.0	7.7
80分未満	84	4.8	7.1	29.8	64.3	67.9	58.3	73.8	19.0	27.4	59.5	34.5	70.2	9.5
80分以上	138	1.4	7.2	24.6	55.1	51.4	54.3	63.8	18.8	31.9	55.8	37.7	71.0	10.9
全体	3073	5.7	3.9	29.1	61.7	63.0	58.6	66.2	18.7	34.3	43.1	41.8	75.6	7.5

勤務時間後に行う

### 【園内清掃】

・勤務時間後に比べて勤務時間内に対応している(緑①)。また、時間別で見てみたものの、他に特筆すべき点は見当たらない(緑②)。

### 【壁面装飾】

・壁面については勤務時間内ではなく、勤務時間外に対応している(青①)。しかし、壁面を職務の一つとしている場合、60分以上の時間が確保されると比較的勤務時間内に対応しているものの、やはり多くが勤務時間後に対応している(青②)。  
・一方、NCTが0分若しくは20分未満の場合、約60～70%が勤務時間外に対応している(青③)。

園内清掃については勤務時間内外問わず、園にいないと対応できないが、壁面装飾については、それを職務の一つとしている場合、「残業」に加え、「持ち帰り」も含めて勤務時間後に対応している姿が想像できる。

壁面装飾については、その必要性に疑問を感じているものの、職務の一つとして行っている。しかし、NCTが十分に確保できない場合、その多くが「勤務時間後」に行っており、その割合は日週月案や各種記録の割合に匹敵する(青④)。  
壁面装飾が子どもたちにどのような影響を与えるか？本当に必要であれば、保育の一環として行えないか？

前項の考察においても触れているように、行事準備の進め方、壁面装飾、清掃作業などのあり方は再考してみる価値があるのかもしれませんが。見た目や大人の満足感に縛られ、それを重視した行事での作り物、子どもの育ちへの効果が不明な壁面装飾、これらを考え直すだけでも、いくらかの時間を捻出することができるかもしれません。大人だけが行っていれば、ただの作業になってしまう壁面装飾や清掃作業も、子どもと一緒にすることで有意義な保育として変換することが可能かもしれません。

保育室の環境を整備することは保育者の大切な職務ですが、日々の簡便な清掃作業などについては、保育職以外の職の活用などを検討する価値があるようにも思います。先のインタビューでもわかるように、自治体の努力や工夫により清掃作業などを他の方に任せることは、NCTを生み出すことにつながるのではないのでしょうか。

保育の場における NCT は、子どもと直接関わるコンタクトタイムをより豊かにするために必要不可欠な時間です。そしてそれが可能となるならば、職員同士の連携がとれて豊かな保育環境のもとで、丁寧で安全な保育を行うことができるようになる（Q9の回答より）と、私たちは考えています。

2018年施行の新指針・要領において、「主体的・対話的で深い学び」という言葉がキーワードとして示されました。その理由は、これからの時代を生きる子どもたちに必要不可欠な学びの原理であるからに他なりません。それならば、その学びの原理を支える私たち自身が「主体的・対話的で深く学び合う」職場環境の構築に努めることが肝要ではないのでしょうか。職員同士が同僚性を持って学び合う時間、子どもの遊びから学んだことを省察する時間、そして、子どもから離れて静かに思いめぐらす時間。これらの時間が、私たちには必要なはずで

子どもたちが社会との接点を持つ最初の場である保育施設が、より豊かであるために、私たちはこれからも活動してゆきたいと思います。

最後に、2018年末にお亡くなりになられた津守眞先生の著書『保育者の地平』の結びの言葉で、この報告書を閉じたいと思います。

\*4

**「子どもが生きる場所が光り輝くように 子どもがはじめた小さなことに目をとめて、それにこたえる保育者となるように」**

〈註〉

- \* 3 厚生労働省「保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会」中間的な論点の整理、2018年9月26日、7頁  
<https://www.mhlw.go.jp/content/11907000/000365868.pdf>
- \* 4 津守眞著『保育者の地平』ミネルヴァ書房、1997年

〈参照調査〉

- ① 城憲秀（中部大学）、日本人間工学会第48回大会講演資料（2007年）  
「幼稚園教諭における作業負担—タイム・スタディの結果から」  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jergo/43spl/0/43spl\\_0\\_132/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jergo/43spl/0/43spl_0_132/_pdf/-char/ja)
- ② OECD（経済協力開発機構）国際調査「国際幼児教育・保育従事者調査」（2018年実施、2019年秋に結果発表の予定）  
[http://www.nier.go.jp/youji\\_kyouiku\\_kenkyuu\\_center/oecd.html](http://www.nier.go.jp/youji_kyouiku_kenkyuu_center/oecd.html)（国立教育政策研究所 幼児教育研究センター）

ノーコンタクトタイム調査票【調査項目】

- Q1. 現在、あなたの職務として含まれているものを選択してください。(複数回答可)  
保育 連絡帳記入 保育日誌記入 日週月案作成 個人票等記録記入  
各種保育記録作成 教材準備 園内清掃 保護者対応 壁面装飾  
会議等 園行事の準備
- Q2. 1日の通常勤務の中で、直接子どもと関わらない時間はどれくらいありますか。  
 【ここでいう通常勤務とは連続する8時間の勤務時間のことで、休憩時間は除きます。  
 平均時間をお答えください】  
0分 20分未満 40分未満 60分未満 80分未満 80分以上
- Q3. 1日の通常勤務の中で、直接子どもと関わらない時間に、あなたはどのような業務を行っていますか。(複数回答可)  
連絡帳記入 保育日誌記入 日週月案作成 個人票等記録記入  
教材準備 園内清掃 保護者対応 壁面装飾 会議等 園行事の準備
- Q4. 保育士・保育教諭の職務として必要だと思うものを選択してください。(複数回答可)  
保育 連絡帳記入 保育日誌記入 日週月案作成 個人票等記録記入  
各種保育記録作成 教材準備 園内清掃 保護者対応 壁面装飾  
会議等 園行事の準備
- Q5. あなたの職務のうち、通常勤務時間内に終了するものを選択してください。  
 (複数回答可) 【通常勤務時間とは連続する8時間以内の勤務時間のことです】  
保育 連絡帳記入 保育日誌記入 日週月案作成 個人票等記録記入  
各種保育記録作成 教材準備 園内清掃 保護者対応 壁面装飾  
会議等 園行事の準備
- Q6. あなたの職務のうち、通常勤務時間後に行っているものを選択してください。  
 (複数回答可) 【通常勤務時間とは連続する8時間以内の勤務時間のことです】  
保育 連絡帳記入 保育日誌記入 日週月案作成 個人票等記録記入  
各種保育記録作成 教材準備 園内清掃 保護者対応 壁面装飾  
会議等 園行事の準備 なし
- Q7. あなたが通常勤務時間後に行っている職務をすべて行うには、1日に付き、どれくらい  
 の時間が必要だと思いますか。  
20分未満 40分未満 60分未満 80分未満 80分以上
- Q8. 1日の勤務の中で、直接子どもと関わらない時間が取れた場合、あなたの仕事はどの  
 ように変化すると思いますか。  
かなり良好になる 良好になる 少し良好になる  
少し悪化する 悪化する かなり悪化する
- Q9. かなり良好になる、良好になる、少し良好になるとお答えになった方にお聞きします。  
 どのように良好になるとお考えですか。(複数回答可)  
残業時間が減る 職員同士の連携がとれる 丁寧な保育ができるようになる  
安全な保育が可能になる 豊かな保育環境を用意できる  
今の職場での仕事が長く続けられるようになる。
- Q10. かなり悪化する、悪化する、少し悪化するとお答えになった方にお聞きします。  
 どのように悪化するとお考えですか。(複数回答可)  
残業が増える 職員同士の連携がとれなくなる 事務仕事が増加する  
安全な保育ができなくなる 子どもの様子が分からなくなる

公益社団法人 全国私立保育園連盟 調査部

平成30年10月1日 保育通信 第763号 付録②

# Let's answer the survey!

このたび、全国私立保育園連盟調査部では、保育従事者の働く環境を改善するための調査を行うこととなりました。題して「ノーコンタクトタイム調査」です。『ノーコンタクトタイム』聞かない言葉だと思います。直訳すれば「直接かかわらない時間」となります。保育現場においては、『子どもと、直接かかわらない時間』となります。

みなさんの基本的な勤務時間は8時間ではないでしょうか？では、その8時間のなかで、子どもと関わらずに、書類を整理したり、教材を準備したり、同僚と打合わせをしたりする時間はどれくらいありますか？よりよい保育を行うためにはしっかりと準備が必要で、また、豊かな保育活動を支えるためには、正しい振り返りや記録も必要です。

幼稚園ならば、子どもたちが降園したあとの時間を、教材準備や打合わせなどいろいろなことに使うことができます。しかし、保育園、こども園には子どもがいない時間はありません。必要不可欠な教材準備や書類作成を行う時間が私たちに圧倒的に不足しています。よりよい保育環境を提供していくためには、通常の勤務時間の中で子どもから離れて、事務仕事に専念することが、必要ではないでしょうか。

全国私立保育園連盟調査部では、みなさんからいただいたアンケート結果をもとに、よりよい保育環境、労働環境の創造に役立てたいと思います。アンケートはQRコードを読み取っていただければ、あなたのスマホですぐにお答えいただけます。アンケートに必要な時間は5分以内です。あなたの5分が明日の日本の保育環境を変える力になります。どうぞアンケートにご協力ください。



- ◆この調査で定義しているノーコンタクトタイムとは、子どもから完全に離れ、別室で事務仕事等を行うことを想定しています。
- ◆調査は匿名で行います。お答えいただく方の氏名等の入力欄はありません。また個人・勤務先が特定されることもありません。
- ◆今回の調査は認可保育所、認定こども園で働く保育士、保育教諭の方が対象です。

- \*QRコードを読み取って「保育士・保育教諭の仕事に関するアンケート」にGO!⇒
- \*全私保連HP「あおむし通信」からもご回答いただけます。  
(<http://www.zenshihoren.or.jp/>)
- \*アンケート特設サイトは9月11日(火)~11月10日(土)の期間、開設しています。



この調査に関する問い合わせ先：(公社)全国私立保育園連盟事務局調査部担当：03-3865-3880

## QRコードによるアンケート回答の方法

カメラを起動してQRコードを画面内にいれてください。



このようなポップアップがでたらそのままタッチしてください



アンケートサイトに接続するとこのような画面になります



アンケートサイトが表示されない場合は…



ラインの友だち追加機能にあるQRコードリーダーからも読み込み可能です



それでも確認できない場合は、アプリストアからQRコードリーダーをダウンロードしてからお試しください

画面の指示にしたがってアンケートにお答えください  
\*所要時間は10分ほどです



アンケート最終画面で『送信』をおしていただくとお答え完了です！ご協力ありがとうございました

送信

回答手段としてはスマートフォンをお勧めしますが全私保連のHPからもアンケートサイトにアクセスいただけます  
<http://www.zenshihoren.or.jp/> または全私保連で検索

\*本報告書に関するご意見、ご感想、お問合せ等は、  
下記の全私保連調査部へお寄せくださいませ。



「保育通信」2019年3月号 No.768 付録  
ノンコンタクトタイム調査報告書

2019年3月1日発行

編者 公益社団法人 全国私立保育園連盟 調査部  
調査部長 丸山 純 (千葉県・第二勝田保育園)  
調査副部長 鷹橋賢淳 (岐阜県・市橋保育園)  
調査部員 齊藤 勝 (山形県・子供の城保育園)  
調査部員 松本 幸 (香川県・土庄保育園)  
調査部員 小川幸伸 (和歌山県・のざき保育園)  
調査部員 元村健正 (熊本県・若草保育園)

発行所 公益社団法人 全国私立保育園連盟

〒111-0051

東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館

TEL 03-3865-3880 FAX 03-3865-3879

URL : <http://www.zenshihoren.or.jp/>

E-mail : [ans@zenshihoren.or.jp](mailto:ans@zenshihoren.or.jp)

デザイン 有限会社タモン

印刷・製本 株式会社光陽メディア

© Kouekishadanhoujin Zenkokushiritsuhoikuenrenmei 2019 Printed in Japan

落丁・乱丁本は本会事務局へご連絡ください。

送料本会負担にてお取り替えいたします。